

# 京都府立農芸高校で出前講座

2・3年生の14人が鉄筋組立を体験、圧接も見学

国交省から榎本課長らが視察に

関西鉄筋組合

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は7月13日、京都市南丹市園部町の京都府立農芸高等学校で出前講座を実施しました。同校が昨年の建設技術展を通じて組合が出前講座を行っているのを知り、今年になって「ものづくりの楽しさを体験するとともに、プロの技術を実際に見て学んでほしい」（山本裕範・進路指導部長）とする同校からの依頼を受けて実現したものです。当日は環境緑地科農業土木系統の3年生11人と2年生2人、そして農産バイオ科の3年生1人の合計14人が参加し、1級技能士などプロの職人の指導を受けながら、鉄筋の組立作業の体験や圧接作業の実演を見学しました。圧接作業は関西圧接業協同組合の濱野功理事長、浜崎仁副理事長らに協力してもらいました。

開講式で挨拶した岩田理事長は「出前講座は2年前から実施していますが、京都では初めてとなります。きょうはものづくりの楽しさと職人の仕事に対する誇りを感じてください」と期待を込めました。また、国土交通省から視察に訪れた土地・建設産業局の榎本健太郎建設市場整備課長も「社会インフラは現場でものを造る人がいてこそ成り立つもの。これからの社会を担っていくのは皆さんであり、今回の講座でもものづくりの楽しさと厳しさを感じてもらい、将来の参考にしてください」と激励しました。国交省からは、同じく東谷研二労働資材対策室労働係長、建設業振興基金構造改善センター海外協力室人材育成・研修支援グループの竹内勉室長も視察しました。

この後の講座では、午前中は又野吉史理事がDVDなどを使いながら、鉄筋工事の役割や建設現場での仕事について説明しました。そして生徒たちは、午後からはガス圧接の実演を見学するとともに実際の作業も体験し、圧接した鉄筋の引張試験も行われました。続く鉄筋の2級検定モデルと擁壁の組立では、ハッカーを使って真剣な表情で結束作業に取り組んでいました。講座終了後の閉講式では、生徒代表によるお礼の挨拶に続いて、田中勲副理事長が「きょうの出前講座の経験を今後の皆さんの進路選択に生かしてください」と締めくくりました。

※ 組合からの参加者は次のとおり（敬称略）

- ・ 岩田理事長（正栄工業）、田中勲副理事長（関西スチールフォーム）、又野吉史（又野鋼業）、辻本浩二（辻本鉄筋工業）、今村俊郎（吉岡工業）、山村修一（関西スチールフォーム）

